

市民・文化観光・消防委員会提出資料
平成 25 年 12 月 9 日
消 防 局

救急隊が脳卒中を疑った事案のうち「t-PA治療の可能性なし」
になった理由について

平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）

救急活動要領により、症状から脳卒中を疑い、
「脳卒中搬送フローチャート」に基づいて活動した事案
5, 583件

参加医療機関外
(カレンダー病院外)
607件

- ※患者かかりつけ
- ※本人希望
- ※医師の指示
- ※関係者等により連絡済
- ※発生場所から近く対応可能であることを知っている

脳血管疾患救急医療体制参加医療機関
(カレンダー病院：31病院)
4, 976件

プロトコルに基づき判別

- ・MPSSによる評価
- ・発症時刻の聴取
- ・既往歴等の聴取

t-PA治療の可能性なし
3, 208件

t-PA治療の可能性あり
1, 768件

医療機関への搬送状況

◎	t-PA実施可能	2627 件	81.9%
○	脳卒中の受入可能	499 件	15.6%
×	脳卒中の受入不可	55 件	1.7%
無	加送 - 送付なし	27 件	0.8%
合計		3208 件	100%

◎	t-PA実施可能	1537 件	86.9%
○	脳卒中の受入可能	190 件	10.7%
×	脳卒中の受入不可	18 件	1.0%
無	加送 - 送付なし	23 件	1.3%
合計		1768 件	100%

「t-PA 治療の可能性なし」3,208 件の理由について

① MPSS の評価によるもの 1,363 件

MPSS が 0 点※ ¹	1,333 件	※1 【MPSS が 0 点となる場合】 脳卒中を疑う症状は認められるが、①顔の麻痺、②上肢の麻痺、 ③発語・言語を確認したところ異常が認められなかったもの。
MPSS が不明※ ²	30 件	※2 【MPSS が不明となる一例】 脳卒中を疑う症状は認められるが、吐き気や強い頭痛などにより、 傷病者が救急隊の観察に応じられず、MPSS の評価ができなかったもの。

◆注：MPSS が不明の 30 件は、すべて◎もしくは○のカレンダー病院へ搬送

② 発症時刻によるもの 1,741 件

発症から 3 時間超	1,659 件	※3 【発症時間不明となる一例】 前夜、就寝時は異常がなかったが、朝起きたら脳卒中を疑う症状が認められたもの。
発症時間不明※ ³	82 件	

③ 既往歴等によるもの 104 件

既往歴等あり	96 件	※4 【既往歴等不明となる一例】 工作中、右半身に痺れが発症し、話し方がおかしくなったため、同僚が救急要請したもの。本人は話がしづらい症状があったため、本人からの聴取はできなかったもの。
既往歴等不明※ ⁴	8 件	

◆注：既往歴等不明の 8 件は、すべて◎もしくは○のカレンダー病院へ搬送

【参考】救急活動要領の「脳卒中搬送フローチャート」（平成 23 年度当時）

